

第 63 回日本公衆衛生学会 自由集会報告書

知ろう・語ろう・考えよう！ “ 一步先行く ” 健やか親子 21 第 4 回

日時：10 月 27 日(水)18：00～20：00

場所：松江テルサ大会議室（島根県松江市、JR 松江駅前）

テーマ 「先をみすえた地域連携を！生まれ変わった健やか親子 21 ホームページ徹底活用」

山梨大学大学院医学工学総合研究部 社会医学講座 教授 山縣然太郎

報告（山縣）

地域における新しいヘルスケア・コンサルティングシステムの構築に関する研究

（H13-子ども-002）

分担研究者：松浦賢長（京都教育大学衛生学助教授）山中龍宏（緑園子どもクリニック院長）近藤直司（山梨県立精神保健福祉センター所長）中村 敬（日本子ども家庭総合研究所部長）谷原真一（島根医科大学環境保健医学第 1 講座）武田康久（山梨大学大学院社会医学講座助教授）研究協力者：豊嶋英明（名古屋大学医学部公衆衛生学教授）玉腰浩司（名古屋大学医学部公衆衛生学講師）長瀬博文（富山県衛生研究所）中村和彦（山梨大学教育人間科学部助教授）水谷隆史（山梨大学大学院医学工学総合研究部助手）近藤尚己（山梨大学大学院医学工学総合研究部助手）山田七重（山梨大学大学院医学工学総合研究部）葉袋淳子（山梨大学大学院医学工学総合研究部）

研究の目的

「健やか親子 21」に資するため、この国民運動計画実施主体のうち特に地域ベースに着目した統合的な推進手法を開発し、一種のヘルスケア・コンサルティングシステムを提言することを最終目的としている。

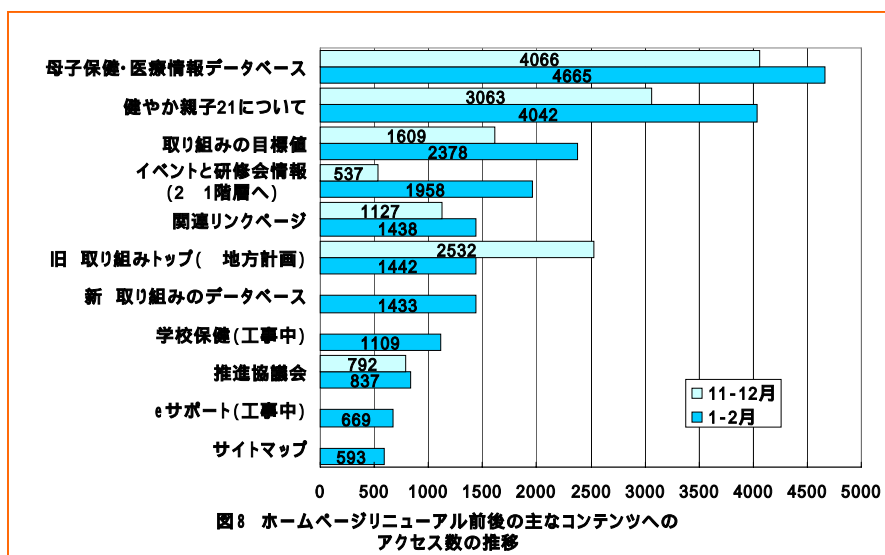
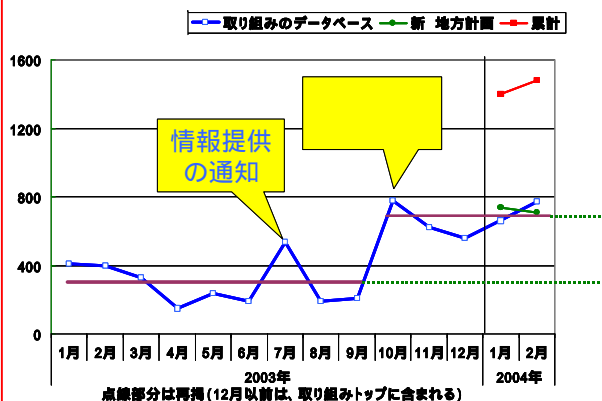
研究を構成する骨子として、次の 3 つのフェーズを提示する。

平成 15 年度の成果（1）

「健やか親子 21」公式ホームページの構築・運営

- 1) 母子保健サービス実施の情報収集と供給体制の整備を目的に「健やか親子 21 公式ホームページ」を作成、運営。
- 2) 平成 13 年 5 月に公開、週に 3 回以上のペースで更新
- 3) 利用度解析により必要度の高いコンテンツから情報ニーズを抽出（マーケティング機能）
- 4) 平成 16 年 1 月に全面的にリニューアル
階層の明確化、各コンテンツの統一性、

操作性の向上と高速化、印刷機能の充実
 新しいコンテンツ（学校保健、e-サポート）の追加
 5）平成16年3月22日現在、約203,300件のアクセスを達成



平成15年度の成果(2)

情報提供データベースの構築

「母子保健医療情報データベース」

母子保健行政の一次資料となる3200件の疫学調査のデータと評価機能を搭載し、アクセス数が最も多いコンテンツ

「取り組みのデータベース」

全面改訂版の構築

3000件のデータ、20項目の詳細検索により地域特異的な情報の抽出を可能にした。

平成15年度の成果(3)

自由集会・研修会の開催

「健やか親子21」を推進する当事者と直接意見交換するために、学会を利用して「知ろう、語ろう、考えよう健やか親子21」の自由集会を実施し、地域における取り組みについて討議した。(日本公衆衛生学会 京都)

また、「健やか親子21」を踏まえた母子保健計画見直しの研修会および、「取り組みのデータベース」研修会を実施し、データベース活用の啓発と現場の状況を把握した。

(愛知、青森、福岡、奈良、帯広、日本理学療法士会)

平成15年度の成果(4)

2つの介入研究の中間および最終報告

山梨県の1市、1町においてこれまでの長期調査で把握した状況を踏まえて、実際のコンサルティングに必要な実践データを得るために、

- 1)小児の事故対策の介入研究
- 2)乳幼児健診を利用した母子関係のアセスメント
とハイリスク児に対する介入に関する研究

を13年度に開始し、本年中間報告および最終報告をまとめた。

平成15年度の成果(6)

現場でのコンサルテーションを実践することによるニーズの把握、実行可能性の検討をおこなった。

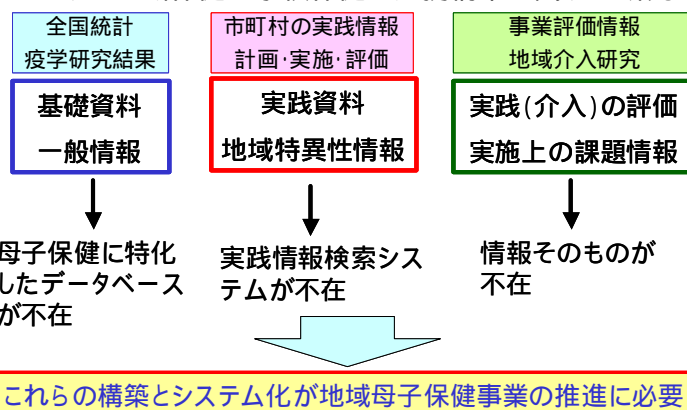
市町村と大学の対等なパートナーシップのモデル開発に関する研究

市町村現場における保健事業総合計画・母子保健計画および次世代行動計画のとりえがたの検討

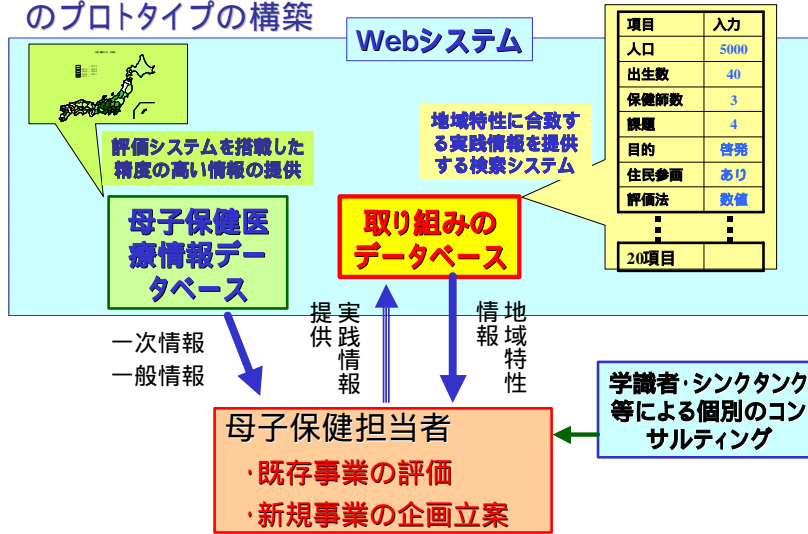
育児支援における非理性的環境の重要性に関する研究

壮年期男性の育児支援者としての潜在的可能性に関する研究

幼児期における地域保健と学校保健の連携構築に関する研究



新しいヘルスケア・コンサルティングシステム のプロトタイプ構築



質問（佐賀県立総合看護学院 学生さん）

・ホームページを初めて知った。このページは誰のためのものか？保健師のため？情報を集めるためのものか。

答え(山縣)

・このページは地域の母子保健担当者のためのものである。情報量が多いので活用できると思う。その他 e-サポートは一般の子育て中の方や子ども自身にも活用してもらえようにしたい。

テーマ 「母子保健における1次予防の取り組み～健やかなの基本：早期発見よりも前に～」

周産期からの子育て支援 地域の産婦人科と保健期間との連携 -

あいち小児医療総合センター 塩之谷真弓保健師

えんじゃによるプレゼンテーションのあと質疑応答をおこなった。

保健部門事業展開のための主要な課題

主要な活動テーマ

日本公衆衛生学会学術総会自由集会
2004年10月27日(水)

母子保健による1次予防の取り組み
～健やかなの基本：早期発見よりも前に～

周産期からの子育て支援

- 地域の産婦人科と保健機関との連携 -

Aichi Children's Health and Medical Center
あいち小児保健医療総合センター
保健室 保健師 塩之谷真弓

1. 子どもの虐待予防活動
2. 子どもの事故予防活動
3. 子どもの健康増進活動
生活実践
4. 子どもと家族のための
ボランティア活動
5. 地域保健・医療連携活動
小児慢性疾患
外科疾患等の在宅医療
6. 国際母子保健活動
7. 愛知県予防接種センター
8. 愛知県遺伝相談センター
9. 時間外電話相談事業
10. 学校保健
・思春期保健活動
11. 小児保健情報センター

【目的】

子どもにリスクが少なく、在院期間も短く、医療スタッフと家族との関係構築も困難なことが多いと思われる出産を扱う地域の産婦人科で、親への子育て支援に視点をあてた連絡票を用い、要支援家庭への支援の方法を分析し、周産期からの虐待予防のための地域の産婦人科と保健機関との連携について検討する。

【対象と西尾保健所管内の状況】

対象：平成15年11月～平成16年2月末までの出産中連絡票活用に同意が得られた事例
 例：西尾保健所管内の産婦人科 山田産婦人科（WHO とユニセフの赤ちゃんにやさしい病院：BFH） 西尾市民病院
 電話1本で連携できていた地域に協力依頼
 連絡票を使っただけのデータ収集・分析



【方法 1】

医療機関での調査同意確認と連絡票の記入
 連絡票：家族記入欄・医療機関記入欄
 家族：医療機関から説明を受け同意欄にサイン 子どもの出生年月日・里帰り先等住所
 保健機関から受けた保健サービスを記入
 医療機関：母子の出生時・退院時の状況 親や家庭への支援の必要性を記入

【方法 2】

医療機関と保健機関：連絡票の送付と返信
 医療機関から保健機関への連絡票の送付 家族から保健サービス利用の希望があった者
 医療機関から支援が必要とされた者 保健活動による支援を依頼
 保健機関から医療機関への連絡票の返信 親や家庭の気になる点、家庭訪問の必要性
 医療機関に報告

支援依頼のあった88事例の内訳

* 319事例に同意：支援依頼なし231事例、支援依頼あり88事例

		医療機関からの支援の必要性		医療機関からの子育て支援の必要性 (重複回答あり)		
		なし n = 58	あり n = 30	子の観察	親支援	家庭支援
家族からの保健サービス利用の希望	あり n = 66	58		5 (62.5)	4 (50.0)	3 (37.5)
	なし n = 22		22	5 (22.7)	5 (22.7)	7 (31.8)

家族のみが保健サービスを希望した事例

	計	保健で心配計	保健で心配された内訳 (重複回答あり)			継続訪問 予定
			子が心配	親が心配	家庭が心配	
・家族の希望あり ・医療機関の支援の必要なし	58 事例	11 (19.0)	1 (1.7)	8 (13.8)	8 (13.8)	3 (5.2)

家族と医療機関の 両方が支援依頼した8事例

	医療機関からの 子育て支援の必要性			保健で 心配 計	保健で心配された内訳			継続 訪問 予定
	子の 観察	親 支援	家庭 支援		子が 心配	親が 心配	家庭が 心配	
家族と医療機関の 両方が支援依頼 計 8事例	5 (62.5)	4 (50.0)	3 (37.5)	5 (62.5)	2 (25.0)	3 (37.5)	5 (62.5)	4 (50.0)

保健活動から親や家庭が心配された5事例(複数回答)

- 母に精神疾患の既往 2例、外国人で日本語がよく分からない 2例、子育てへの不安・母14歳で若年・子育てに不慣れ・孤立・父の協力・単親家族・経済問題 各1例



家族と医療機関の 両方が支援依頼した8事例

	医療機関からの 子育て支援の必要性			保健で 心配 計	保健で心配された内訳			継続 訪問 予定
	子の 観察	親 支援	家庭 支援		子が 心配	親が 心配	家庭が 心配	
家族と医療機関の 両方が支援依頼 計 8事例	5 (62.5)	4 (50.0)	3 (37.5)	5 (62.5)	2 (25.0)	3 (37.5)	5 (62.5)	4 (50.0)

保健活動から親や家庭が心配された5事例(複数回答)

- 母に精神疾患の既往 2例、外国人で日本語がよく分からない 2例、子育てへの不安・母14歳で若年・子育てに不慣れ・孤立・父の協力・単親家族・経済問題 各1例

家族の依頼から継続訪問となった3事例

事例	実施した 保健活動	親が心配	家庭が心配	その内容
1	家庭訪問	子育ての不安が強い	経済的問題、その他	家族内に精神患者がいて家族関係・家庭環境が複雑。母はうつ病。離婚検討中。
2	家庭訪問	子育ての不安が強い	子育てに不慣れ	児が寝てくれないことへの不安が強く、母自身も不眠。
3	家庭訪問	こころの問題	その他：父の転職	家業を継ぐことで父が研修に行き不在となる。母は無表情で、不眠もあり、不安気。

【考 察】

地域の産婦人科の319事例の出産中、
13事例(4.1%)に親支援・家庭支援の
必要性 保健機関の保健活動から、
22事例(6.9%)に親や家庭が心配とされた
医療機関では問題ないとされ、家族のみが保健
サービスを希望した中からも要支援事例があった。

医療機関から保健機関への

子育て支援依頼+家族の希望から保健活動に繋ぐ当事者の視点も重要!

【まとめ】

今後は地域の産婦人科と保健機関との連携による子育て支援の強化が母子保健の重要課題
地域の産婦人科からは子育て支援に視点をあてた連絡票を家族の希望も大切にしながら活
用し、 支援を必要としている家族を保健機関に繋ぐ体制を
地域の産婦人科と保健機関とが相互に連携
虐待予防・健やかな親子の実現へ!!

医療機関からのみ支援依頼した22事例

	医療機関からの 子育て支援の必要性			保健で 心配 計	保健で心配された内訳			継続 訪問 予定
	子の 観察	親 支援	家庭 支援		子が 心配	親が 心配	家庭が 心配	
家族の希望なし ・医療機関のみ 支援を依頼 計 22事例	5 (22.7)	5 (22.7)	7 (31.8)	6 (27.3)	1 (4.5)	3 (13.6)	4 (18.2)	2 (9.1)

医療機関からのみ支援依頼をした22事例の内訳

- 8事例:親や家庭への支援依頼があり、6事例が心配あり
2例は継続訪問、1例はDVで支援会議をしつつ電話で支援中
- 12事例:母子に心配はなく2500g未満の低出生体重児
- 2事例:心雑音、多胎のための紹介

虐待対策の方向性

「待ちの支援から、要支援家庭への
積極的なアプローチによる支援へ」

「発生予防から虐待を受けた子どもの
自立に至るまでの切れ目のない支援」

児童虐待への対応など要保護家庭および要支援家庭に対する支援のあり方に関する
当面の見直しの方向性について、社会保障審議会児童部会報告書、2003年11月

質問（千葉県印西市保健センター 鈴木茜保健師）

・医療との連携をする中で調査票を作る経緯を教えてください。どのようにして人間関係作りを進め、協力を仰いだのか。

答え（塩之谷真弓保健師）

・医療者側と知り合いならやり易い。

よく出産数が多く忙しいからできないと言われることがあるが、出産がスタートであるという気持ちを持っていることが大切だと思う。看護師同士の連携も大切。経過の報告などの会議を持っていくこと。研修会を実施した。東京大学の荷見よう子先生を招いた。多くの出席者を募っていただいた施設もあった。西尾のネットワークを利用して、保育園の保育師さんたちにもご協力をいただいた。いろいろなところを巻き込んでいくことが大切。そしてデータの交換などの機会を作り、その都度顔をあわせていくことが大切だと思う。

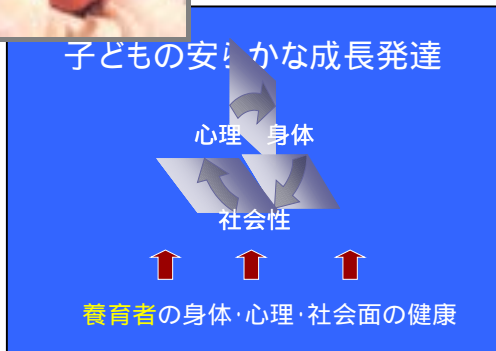
2)母子保健における1次予防の取り組み ~子ども・養育者の生命力を育むために~

川島広江助産師



母子保健における1次予防の取り組み

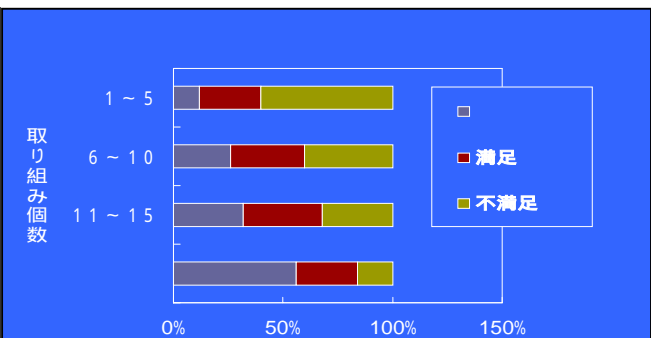
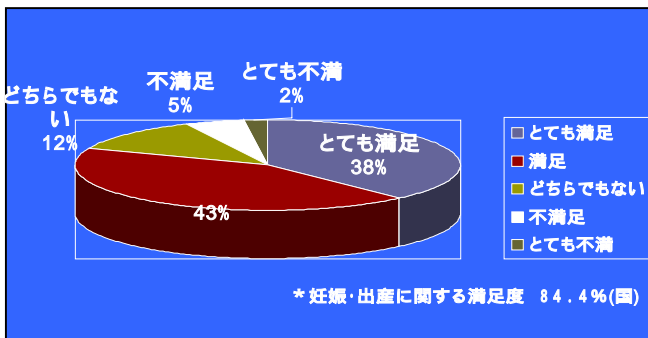
~子供・養育者の生命力を育むために~

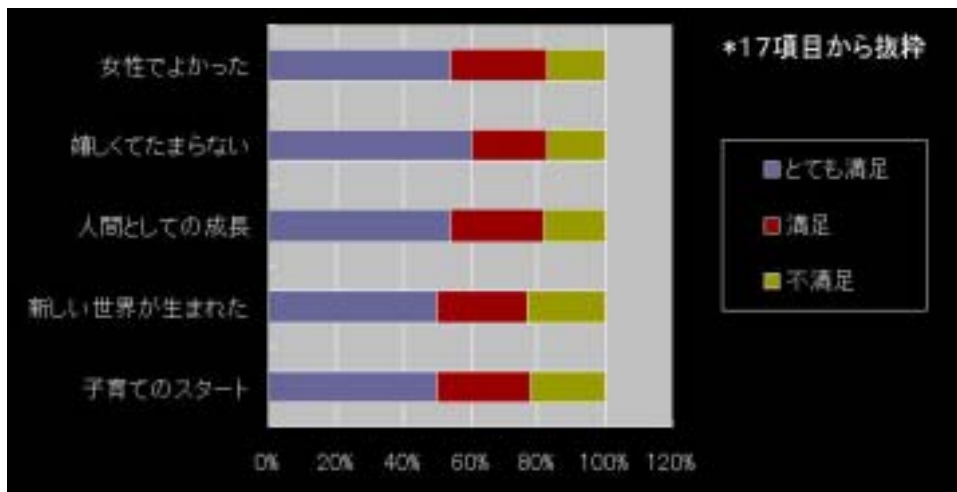
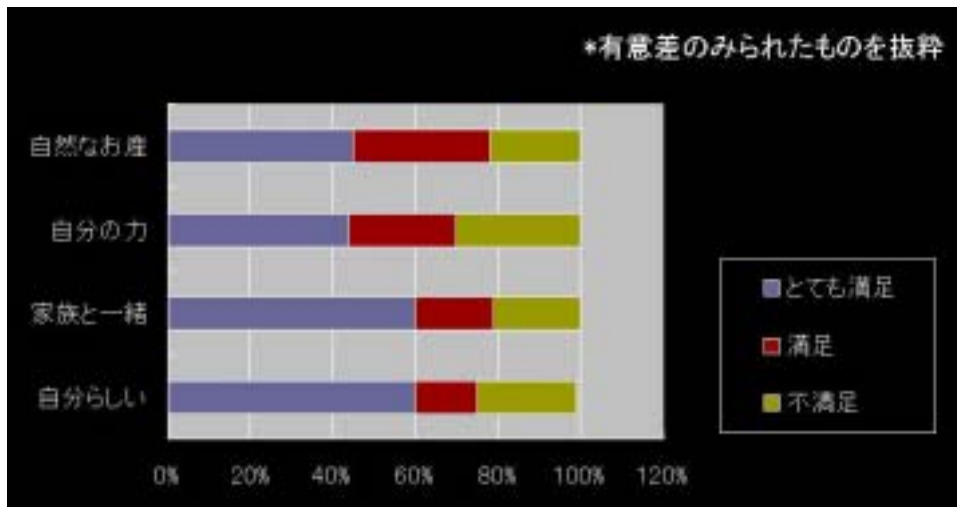


養育者の身体・心理・社会面の健康に
影響を強く与えるお産・・・続く育児

- 母体内で、進行性変化・退行性変化が同時期に起こり、ダイナミックに身体変化および心理変化が起こる時期
- 育児・新しい家族形成という課題のある時期

妊娠中から取り組む意義





子どもに影響を与える・・・

養育者の身体面の健康

身体面の健康課題を見出し、保健行動がとれる

- ・ お産に向けての体づくり
- ・ 育児に向けての体づくり

養育者の心理面の健康

自己のストレスコーピングを見つめ、効果的なコーピングができるようにする

- ・ 発達課題とのギャップの是正
- ・ セルフエスティームの高まり
- ・ 心理面の健康を阻害するものの発見

養育者の社会面の健康

自己のコミュニケーション能力を見つめ、効果的なコミュニケーションがとれ、さらに効果的な社会参画ができるようにする

- ・ 夫婦間のコミュニケーションの発展

- ・ 社会参画への興味

助産師会としての取り組み

- 親になるクラス
- 胎児期からの子育てクラス
- 産後訪問での『お産の振り返り』
- 親子で学ぶ生命のクラス
- 小さい子どもの性教育
- 就学时子育て講演会
- 思春期を持つ親への子育て講座 他



助産師の core と keyword

- 生命の素晴らしさ、生命力の素晴らしさ
- 自己肯定感とヒーリング 自己認識を高める
- 愛情・理性・自己コントロール
- 生の意味 価値観の広がり エンパワメント



質問（奈良県下市町保健センター 森川保健師）

- ・自治体や保健所などが行なっている母親学級や両親学級などもあるが、こうした地域の学級活動に求めるもの、期待するものは何か。

答え（川島広江助産師）

- ・父親の育児についての満足度を調査した時に、沐浴などの技術に関することを手伝っていても満足度が低いということがわかった。学級の内容を沐浴などの技術習得のプログラムだけには終始しないで欲しい。そして、母子保健に関する委員会や協議会などに助産師を入れて欲しいと思う。



まとめ

(山縣)

- ・ 愛知の調査に同意した人はどのような人たちか？

(塩之谷真弓保健師)

山田産婦人科医院では、対象者が 100%同意し協力してくれた。ケアをしっかりとしているから協力も得られ易かった。一方西尾市民病院では病院の特殊性から飛び込み出産などがあり、そのような人たちには協力が得られなかった。

(山縣)

- ・ 今後この活動を広げていきたいと考えているか？また広げていく際の壁は？乗り越えなくてはいけない点は何か？

(塩之谷真弓保健師)

- ・ 知識の啓蒙が必要。人手がないことに対しては必要なのだという強い気持ちを持っていくことが大切だと思う。医療者側に対しての PR が下手だと思う。医療者側への PR をしっかりしていきたい。

(山縣)

- ・ このような活動は千葉では可能でしょうか？

(川島広江助産師)

- ・ 自分が使えるネットワークを持っていることが大切でそれを利用していくことが必要。まずは気心の知れている保健師に話し研究会、助産師会、医師会の協力を得る。ネックとなるのは産婦人科の協力がどのくらい得られるかということになると思う。



最後に(山縣)

現場での気付きが大切である。われわれはプロとして気付いていけるようにしたい。このような事業をつなげていく、つながってくるにはまず受け皿が必要である。愛知での取り組みが他の地域でも運用が可能か、あるいはそれ以上の取り組みができるか今後も検討を続けて行きましょう。

以上